

教頭先生に聞きました

□ 教頭先生になろうと思ったきっかけは何ですか。

職員室の日常会話の中で、当時の管理職から次年度の宗谷管内の教頭配置の情勢を伺い、「このままでは、教頭が配置できず、その学校の子供たちが困ることになるのではないか？」という危機感を感じ、微力ながら手を挙げようと決断しました。（稚内市立稚内中央小学校教頭 杉本 旬）

□ 教頭先生になることに不安はありませんでしたか。

不思議なことに不安は全くありませんでした。教務部長時代に管理職と相談する機会も多く、視野が広がったことが大きかったです。どの仕事をしていても悩みが生まれてくるのは当たり前のことなので、それはそれでなんとかなると思っていました。（利尻町立利尻中学校教頭 永吉 宏之）

□ 授業を行う機会が少なくなることに不安はありませんでしたか。

子供達との深い関わりが減り、寂しさを感じることはあります。ただ、それ以上に、教頭としての責任の先に、子ども・地域・教職員の成長が待っていることに、やりがいを感じます。「一隅を照らす」気持ちを大切に、チャレンジを続けます。（利尻町立沓形小学校教頭 杉本 真樹）

□ 仕事（教頭職）と家庭（育児など）の両立に不安はありませんでしたか。

責任ある立場への挑戦と、かけがえのない我が子との時間。もちろん不安はありましたが、家族の理解と温かい支えがあってこそ前に進むことができました。両立は決して楽ではないですが、仕事に優先順位をつけ、自分自身のペースで仕事をしています。（稚内市立稚内東中学校教頭 平岡 雅子）

□ 教頭先生になって大変だったことは、どのようなことですか。

教頭1年目&小学校担任の二刀流で、教材研究等に時間を費やしている点が大変と言えば大変。なんとか頑張っているのは、事務職員の他にサポートをしていただける職員が配置されているのが大きいです。一番大変なのは、教頭らしくない事ですかね。（豊富町立兜沼小中学校教頭 吉川 貴志）

□ 教頭先生になってよかったことは、どのようなことですか。

教育についての勉強や、校長先生や他の先生方との関わりを通して、「広く深く長い」視点をもてるようになったこと、学校や地域への思いや願いを知る機会が増え、地域やそこに住む方をより好きになったこと、現場にいる時より、工夫して仕事をするようになり、プライベートに使える時間が増えたこと、です。（稚内市立宗谷小学校教頭 國廣 尚人）

□ 教頭先生になって自分自身が成長したと感じることは、どのようなことですか。

視野が広がったことです。管理職は、子どもや保護者だけではなく、地域の実情や国の動向など、もう少し視野を広げて考えることが求められます。教育活動を考える際に、そのような視点を持てるようになったことは、自分自身の成長だと感じます。（枝幸町立目梨泊小学校教頭 長畑 幸太郎）

□ 御自身の働き方改革を進めるために、どのようなことに気を付けていますか。

私が意識しているのは、スケジュールの管理と今日できる事を明日に先延ばししない、の2つです。外部から仕事を依頼されることや事例が発生したときに急遽対応しなくてはいけないこともあります。どんなことがあっても大丈夫なように、そして自分の時間を持って毎日元気で働くためにも、できることはどんどんやるようにしています。（礼文町立礼文小学校教頭 富樫 淳）